

# バスケットボールプラザ

*Basketball Plaza*

*No:61*



2014年2月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

**molten**<sup>®</sup>  
For the real game



# For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」  
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに  
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして  
常に完璧な製品づくりを目指しています。



# 目 次

- 全日本総合選手権大会の結果 . . . . . 2  
第89回天皇杯・第80回皇后杯
- ウインターカップの結果 . . . . . 11
- 1964年東京オリンピックの出場 . . . . . 歴史部 . . . 13  
オリンピック座談会を開催 (その1)
- 全国ゴールデンシニア交歓大会 . . . . . 普及部 . . . 23  
第3回横浜カップ in こしがや2014
- 人物抄  
笹岡太一さん . . . . . 25
- 12月21日はバスケットボールの日 . . . . . 石井一生 . . . 27  
3年目を迎えたバスケットの日記念イベント
- 会員だより  
バスケットボール湘南だより (その5) . . . . . 中瀬達雄 . . . 35  
兼子勲先生の思い出 . . . . . 鈴木進吾 . . . 32
- スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会 . . . . . 34  
スペシャルオリンピックス東京代表コーチ 古野庸一
- 編集部短信 . . . . . 36  
青木勇作さん JBA 功労表彰受賞  
東京工業大学記念史 寄贈される  
デューパーファイブ元社長 故塩谷佳己氏 功労表彰受賞
- NBL・WJBLの途中成績 . . . . . 37
- 事務局だより . . . . . 40
- プラザ こぼればなし . . . . . 41

# 全日本総合選手権大会の結果

## 第89回天皇杯・第80回皇后杯

[編集部]

お正月早々の1月1日、駒澤体育館、大田区総合体育館、代々木体育館で開幕した首題の大会は、1月12日に女子決勝戦、1月13日に男子の決勝戦が行われ、女子はJX-ENEOSが2年ぶりに優勝を奪還し、男子は東芝神奈川が8年ぶりの優勝を飾った。

大会には男子36チーム、女子32チームが出場し、1月1日の1回戦から始まり6日から10日までの中休みをはさみ、オールジャパンにふさわしい熱戦が繰り広げられた。大会当初メディアの取り上げは極めて少なかったが、元旦からまばらながらもチームの応援を主とした観戦者があり、最終日の男子決勝で代々木第一体育館を埋めつくす観客があったことには感激した。

1～2回戦では地方代表チームや学生チームが顔を出したが、男子のNBDL、女子のWJBL相手ではワンサイドゲームが目立った。そこにはチームの選手層の厚さ、更に身長差が歴然としており勝敗に影響していた。



大会が進んだ1月3日からはNBLやWJBLの上位チームが登場し、これらのチームに挑戦する学生の奮闘が期待されたが、ベスト8に残ったのはインカレを制した男子学生チーム東海大学だけであった。

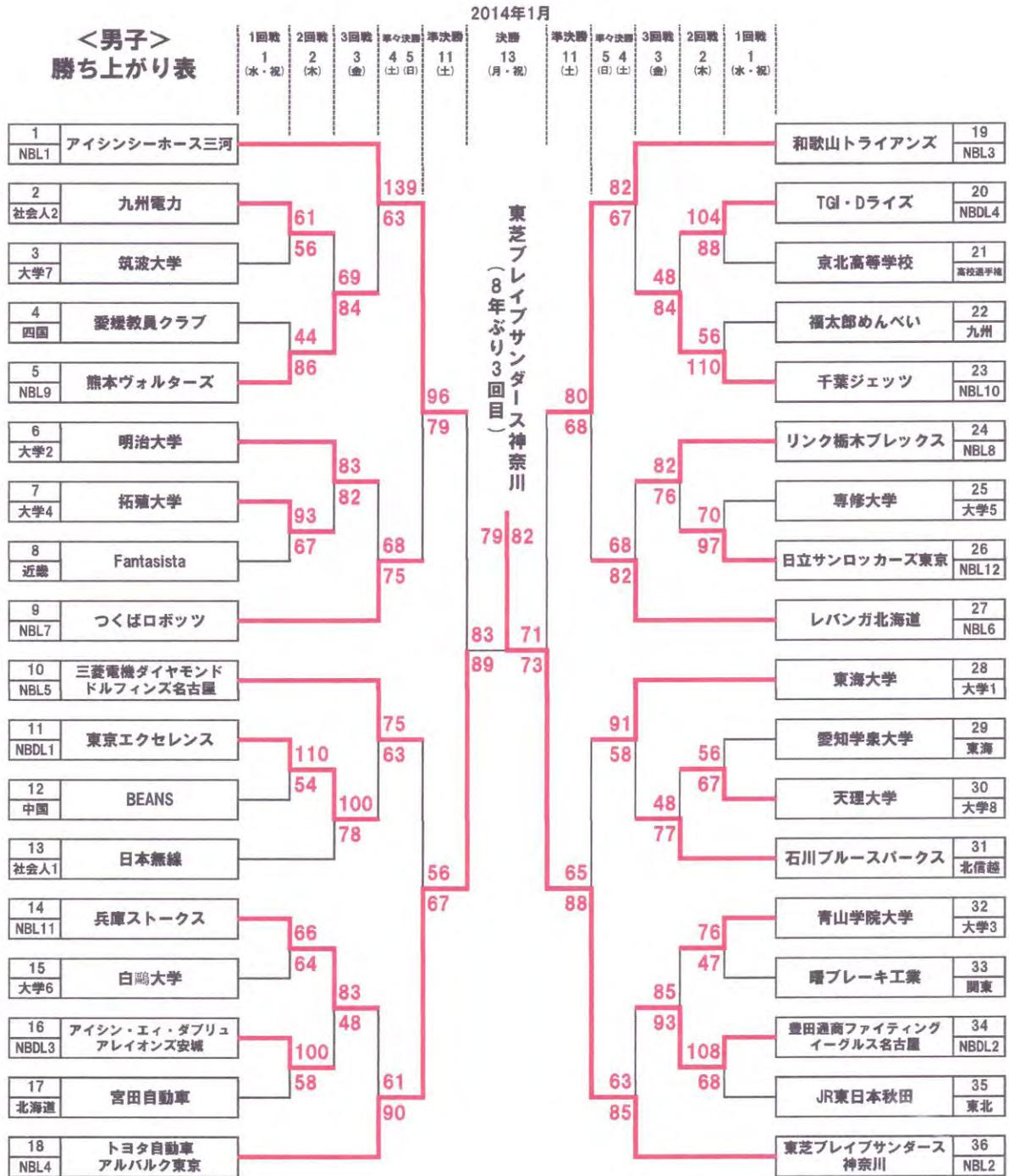
日本バスケットボール界の将来のためにも、学生チームの日本リーグチームへの挑戦が望まれるとともに、地方代表チームにも更なる強化を期待したい。

1月11日の準決勝以降の試合では、逆転劇が多くみられたり、試合が進むにつれて一時はワンサイドゲームかと思われた試合でも、後半になって相手が肉薄する展開があったりして、詰めかけたファンにこの上ない見応えがあったのも今回大会の特徴であろう。

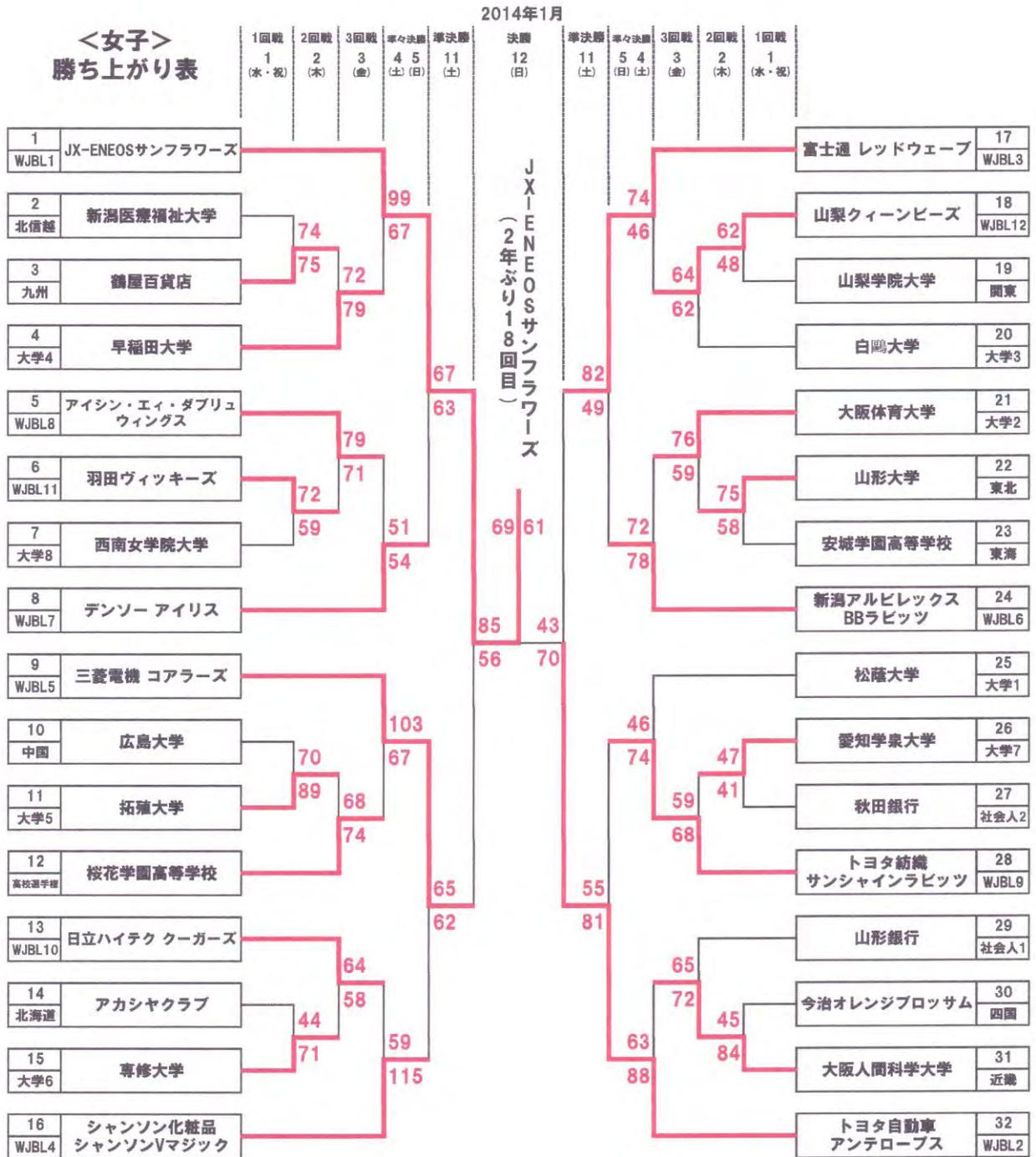
バスケットボールの試合では、試合の流れやほんのちょっとしたベンチ采配が勝ち負けを左右するといった、バスケット競技の特徴ともいえるスリリングな場面が多くみられ、観客の数も昨年より多く、BSを含めたTV放映も昨年より機会が増えた。これも女子日本代表がアジアで優勝した好影響があちこちで花開いた格好となり、日本代表の国際的台頭がどんな宣伝効果にも勝ることを物語っているのではなかろうか。

組み合わせ、トーナメントの結果は次頁の通りだが、男子ではオンザコート外国籍選手1名がいるNBLチームが抜きん出て強く、女子でもベスト8に進んだのはすべてWJBLの上位チームであった。男子のNBDL、女子のWJBL下位チームがこれら上位チームに対して対等に闘える力を充実させ頑張りを見せて善戦すれば、大会は更に盛り上がりマスメディアの取り上げも増えるだろう。国立競技場で開催された高校生のサッカー、東京体育館の年末のウィンターカップまでには届かないにしても、観客動員がもう少し増えることによって、伝統あるオールジャパンの充実と盛り上がりが増すことは確実である。

<男子の結果>



<女子の結果>



## 1月1日 男子1回戦

	1P	2P	3P	4P	計
TGI・Dライズ	34	13	33	24	104
京北高等学校	20	19	20	29	88

これは、40年ぶりにインターハイを制してこの大会初出場となった京北高校がNBDL4位のTGI・Dライズに対してどこまで善戦するかが注目された試合。

第1ピリオド出だし、京北高校は大舞台でさすがに固さが目立ち、得点が伸びなかったが第2ピリオドに入ると一転して粘り強いディフェンスから相手のミスを誘い、前半をおえて8点差に詰め寄る。

しかし後半、第3ピリオドではTGI・Dライズが攻勢に転じ点差が開く。第4ピリオドでは京北高校が勝敗にこだわらず大奮闘、随所で速攻や3Pシュートを成功させる好プレーを展開して観衆を魅了した。敗れはしたものの、格上のNBDLチームに真っ向から立ち向かった姿は高校生らしく、試合終了と同時に会場全体の観衆から大きな拍手と称賛の声があがった。

この試合京北高校#5 新川選手は3Pシュート9本を含む39得点を挙げる大活躍、京北高校の3Pシュート成功率平均47%は立派な成績であり、これら高校生が2020年東京オリンピックへ向けて大きく成長することを期待したい。

## 1月2日 女子2回戦

	1P	2P	3P	4P	計
桜花学園高等学校	23	13	16	22	74
拓殖大学	20	13	21	14	68

大学5位の拓殖大学に対して、今年度インターハイ、国体、ウィンターカップと高校3冠となった桜花学園高校の試合は、最初からどちらも譲らず激しい攻防の大接戦となった。



第1ピリオドは僅かに桜花学園高校がリード、第2ピリオドは互角、第3ピリオド終了では拓殖大学が僅か2点をリードして勝負は第4ピリオドへ持ち越された。

第4ピリオドでも一進一退の攻防が続いたが、終盤桜花学園高校が#4 山田や#5 馬爪の正確なシュートで一步抜け出したのに対して、拓殖大学は#4 瀬崎を起点にシュートを放つがこれがいま一つ決まらずタイムアップ、結局6点差をもって高校生が大学生を下した。

この試合の2Pシュート成功率をみると、桜花学園高校が53%を挙げたのに対して、拓殖大学は39%にとどまり、その差が勝敗を分けた結果となった。学生同士の試合とあってお互いがひたむきなプレーを続け、勝敗を別として好ゲームとの印象となった。

### 1月4日 男子準々決勝

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
東海大学	19	17	10	19	65
東芝神奈川	20	21	24	23	88

学生1位の東海大学がNBL 2位の東芝神奈川に勝てば、久しぶりに学生がベスト4に進出するとあって注目を集めたが、やはり外国人選手をはじめとし上背を有するNBLチームの壁は厚く、善戦はしたものの結果として今回優勝の東芝神奈川に大差で敗れた。

第1ピリオド東海大学が若さを発揮して速攻を主体に得点して一時リードするが、東芝神奈川もセンター#22 ファジーカスにボールを集めて対抗し接戦に終わる。第2ピリオドに入ると東芝神奈川が確率良くシュートを決めたのに対して東海大学は一時攻撃がかみ合わず、最後に5点差まで追いつけたものの、東芝神奈川に余裕をもって終わらされた。

後半に入ると攻撃の差はさらに開き、東芝神奈川が順調な展開で得点を上げたのに対して、東海大学は外からのシュートもあまり決まらず苦しい展開となる。リードした東芝神奈川は第4ピリオドに入っても手を緩めず、メンバーを大幅に変えることなく東海大学を圧倒した。東海大学は学生らしく試合を通して果敢に走りまくったが、後半に入ると疲れも出てシュートに精彩を欠きベスト4進出はならなかった。

### 1月11日 女子準決勝

女子準決勝は2試合ともWJBLリーグ戦の下位チームが上位チームに挑戦する格好となったが、両試合とも挑戦するチームが精彩を欠きワンサイドゲームとなった。

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
富士通	12	7	12	12	43
トヨタ自動車	16	18	14	22	70

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
JX-Eneos	20	25	19	21	85
三菱電機	13	13	19	11	56

勝った両チームとも日本代表チームの選手が多数存在するが、まず目に付いたのはディフェンスの厳しさであった。昨年の秋タイ・バンコクで開催された女子アジア選手権大会において43年ぶりに日本代表が優勝したが、その源の一つが厳しいディフェンスである。代表チームに加わった選手のディフェンスを他の選手もお手本にするなど、女子バスケット界はアジアを制した好影響で確実にレベルアップしている。

女子準決勝のデータを参照して見ると、ディフェンスが影響するターンオーバー（ミス）では、トヨタ自動車の10に対して富士通は20、JXの12に対して三菱電機は18と負けたチームがかなり多い。また2Pシュートの成功確率では、トヨタ自動車53%に対して富士通は35%、JXの53%に対して三菱電機は26%と相当悪く、これらの差が勝敗を分けており改善修正が必要であろう。このレベルアップを達成できないチームは、上位チームとの格差が更に広がる可能性もあり、下位チームの奮起が望まれる。

### 1月11日 男子準決勝

男子準決勝は2試合とも大変なゲームとなった。どのチームにも甲乙つけ難く詰めかけた観衆を最後まで釘づけにしたし、息詰まる熱戦に対しては試合が終わるたびに割れんばかりの拍手が会場に鳴り響いた。

	1P	2P	3P	4P	計
アイシン三河	32	18	20	13	83
トヨタ自動車東京	15	22	30	22	89

NBL 1位のアイシン三河が開始早々から内外バランスのよい攻撃で得点を伸ばしたのに対して、NBL 4位のトヨタ自動車東京はシュートが決まらず次第にリードを広げられる。大量リードで気を緩めたわけではないのだろうが、アイシン三河は第2ピリオド終盤からスタートメンバーをベンチへ下げる作戦に出た。

その結果、アイシン三河は第2ピリオド終盤5分間で4点しか得点できず、前半を終えて50対37と13点のリードで終わる。

第3ピリオドに入ってこの状態がしばらく続いた結果、トヨタ自動車東京が徐々に追いついて残り4分には60対61に詰め寄った。トヨタ自動車東京は、アイシン三河がゾーンディフェンスを攻めあぐんでいるうちに流れを掴んで得点を伸ばし、第3ピリオドを終わって67対70の3点差と詰める。

第4ピリオドに入り、トヨタ自動車東京は、引き続きゾーンディフェンスでアイシン三河の攻撃を封じ込め、開始4分過ぎに#16 松井の3Pシュートなどで77対75と逆転に成功する。アイシン三河は、タイムアウトを使い切って立て直しを図るがなかなか思うようには行かず、逆転するまでには届かない。それでもアイシン三河は、#14 金丸の3Pシュートなどで食らいつき、時計が残り1分となったところで81対83と2点差に詰め寄るがその後シュートが決まらない。ここでトヨタ自動車東京はすっかり調子に乗って更に得点を伸ばし、結局トヨタ自動車東京の大逆転勝利となった。

アイシン三河は大量リードで安心してしまったのか、第2ピリオド中盤からプレーがかみ合わなくなり、それに対してベンチも流れを変える策を取らなかったように見えた。大量リードにも拘わらず少しの隙が大逆転劇を呼ぶことになり、バスケットボールは試合の流れが勝敗に著しく影響するスポーツであることが実証された試合となった。



	1P	2P	3P	4P	計
東芝神奈川	18	15	21	19	73
和歌山	21	17	9	24	71

NBL 2位3位同士の対戦となったもう一方の準決勝も壮絶な戦いとなった。NBL 2位の東芝神奈川#14 辻の3Pシュートを含む活躍と、和歌山#9 川村の同様な活躍で最後ま

で追いつ追われつの戦いとなり会場を沸かせた。

第1ピリオド第2ピリオドは、和歌山が#9 川村の3 Pシュートと#31 青野の活躍で一步抜け出した感じだったが、第3ピリオドに入るとお互いにシュートが決まらない。しかし3分を過ぎてからお互いまた得点の取り合いとなつて一進一退の戦況が続くが、和歌山は残り時間で得点が止まる一方、東芝神奈川は残り3分から#14 辻が連続3ゴールを挙げて流れを引き寄せる。すると、東芝神奈川は他の選手も思い切りのいいシュートで得点を挙げ、最後はまたもや#14 辻が連続3 Pシュートを成功させて51対47と一気に逆転する。



第4ピリオドに入っても東芝神奈川の勢いが持続し、211cmの#22 ファジーカスがゴール下を頑張りリードを広げる。和歌山はこの4分間得点がなくこのまま東芝神奈川の優位で行くのかと思いきや、和歌山#9 川村が4本の3 Pシュートを決め、#1 木下も3 Pシュートを成功させて一気に点差を詰める。残り7秒で3点差に詰め寄せられた東芝神奈川はタイムアウト後のスローインで痛いターンオーバー。和歌山はボールを得た#1 木下が残り0.7秒で劇的な3 Pシュートを決めて71対71の同点に追いつく。このまま延長戦になると誰もが思ったが、東芝神奈川がタイムアウト後に#22 ファジーカスのブザービーターを成功させ1ゴール差で劇的な勝利を飾り和歌山を退けた。

#### 1月12日 女子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
JX-ENEOS	18	21	13	17	69
トヨタ自動車	13	15	6	27	61

女子決勝戦は昨年のオールジャパンと同じ顔合わせとなった。昨年優勝のトヨタ自動車は連覇を狙い、JX-ENEOSは王座奪還を目指しての戦いとなった。

第1ピリオド、JX-ENEOSはトヨタ自動車のゾーンディフェンスを突き破って、#10 渡嘉敷や#12 間宮が、#12 吉田のアシストによって得点していく。トヨタ自動車はJX-ENEOSの厳しいディフェンスにペースを狂わされて得点が伸びず5分を経過してやっと2点が入る。その後、トヨタ自動車は#25 久手堅がフリースローに続いて3 Pシュートを決めて13対18の5点差に詰め寄る。

第2ピリオドに入るとJX-ENEOSは、トヨタ自動車のゾーンディフェンスに苦しんでミスを連発し、残り7分にトヨタ自動車#12 矢野のシュートで20対21と逆転される。しかしJX-ENEOSは慌てず、#11 岡本の3本の3 Pシュートなどで再びリードを広げ前半を終えて、39対28と11点の差をつけた。



第3ピリオド、追いつきたいトヨタ自動車だがJX-ENEOSの執拗なディフェンス

の前にシュートが決まらず、このピリオドの得点は僅か6点に終わる。

第4ピリオドに入るとトヨタ自動車が反撃を開始、#25 久手堅の3Pシュートを皮切りに各選手が次々と得点し、残り6分に#24 栗原の3Pシュートで46対59と7点差に詰め寄る。更にトヨタ自動車は、JX-ENEOSの大黒柱でもある#10 渡嘉敷がファウルトラブルでベンチへ下がっている間に、オールコートプレスディフェンスで相手を苦しめる。しかしJX-ENEOSは、ポイントガードの#12 吉田がうまくボールを回して、ゴール近くの#21 間宮へつないでリードを保ち、結局8点差で逃げ切った。

この試合、お互いに厳しいディフェンスを仕掛けた結果ミスが目立ち、JX-ENEOSが27のターンオーバーに対してトヨタ自動車はターンオーバー15だった。また、トヨタ自動車は2Pシュートの確率が33%とシュートミスが目立ちターンオーバーが少なかつたにも拘わらず、敗因のひとつになった。

JX-ENEOSは2年ぶり18回目の優勝。

### 1月13日 男子決勝戦

	1P	2P	3P	4P	計
東芝神奈川	14	18	30	20	82
トヨタ自動車東京	14	17	21	27	79

最終日男子決勝戦はお互いに厳しいディフェンスで譲らず、すさまじい激戦となった。



前半はロースコアであったが激しいポジション争いや見応えのあるリバウンドが展開された。第1ピリオドは同点、前半を終えて東芝神奈川が最少得点差の1点リードという得点数が厳しい試合展開を物語っている。目立った所では東芝神奈川#22 ファジーカスのインサイド得点、トヨタ自動車#10 岡田の第2ピリオド3本の3Pシュート成功などが挙げられる。

後半に入って試合は急に動きを見せる。東芝神奈川はポイントガードの#14 辻が3Pシュートを決めると、#22 ファジーカスや#25 ジェフが走って速攻を決めるなど攻撃が冴える。一方トヨタ自動車は東芝神奈川の厳しいディフェンスによってシュートが決まらず、第3ピリオド残り2分には45対58とリードを広げられてしまう。

第4ピリオドに入るとトヨタ自動車は反撃を始め、#10 岡田のタイミングよい3Pシュートや#31 リーチーなどの得点でじわじわと挽回し、残り4分には69対73と4点差に詰めよった。ここから東芝神奈川が#14 辻の3Pシュートなどでまた突き放すが、トヨタ自動車もすぐに入れ返し残り18秒には#35 伊藤が3Pシュートを決めて79対78と逆転する。この1点差を追う東芝神奈川は、タイムアウトの後、ボールをうまく#22 ファジーカスへ回し、残り13秒で再逆転の80対79。残り少ない時間、パスを出したトヨタ自動車のボールを東芝神奈川#14 辻がセンターライン近くでスティールして速攻を決め、東芝神奈川が82対79をもって激戦を制した。東芝神奈川は8年ぶり3回目の優勝だが、北ヘッドコーチは現役選手時代にも優勝している。

## 表彰式

男女とも決勝戦終了後表彰式が行われ、優勝チームに天皇杯、皇后杯がそれぞれ授与されるとともに、優勝チームには賞金500万円、準優勝チームには賞金200万円が贈られた。また個人賞の大会ベスト5は以下の通りとなった。

## 男子

選手名	チーム名	No	受賞回数
辻 直人	東芝神奈川	14	初受賞
ニック・ファジーカス	東芝神奈川	22	初受賞
ジェフ・ギブス	トヨタ自動車東京	3	初受賞
岡田 優介	トヨタ自動車東京	10	初受賞
川村 卓也	和歌山	9	7年ぶり2回目



## 女子

選手名	チーム名	No	受賞回数
吉田 亜沙美	J X - E N E O S	12	2年ぶり4回目
渡嘉敷 来夢	J X - E N E O S	10	4年連続4回目
間宮 佑圭	J X - E N E O S	21	初受賞
川原 麻耶	トヨタ自動車	2	2年連続2回目
森 ムチャ	トヨタ自動車	22	初受賞



## 人物抄

### 笹岡 太一 さん

【編集部】



笹岡さんは、大正13年(1924)7月、東京のお生まれで今年89歳だが現在でもお仕事をされていて大変お元気である。一般的にはこの年になると引退されてゆっくりと過ごす人が多い中、毎週1~2回東京巣鴨のご自宅から大崎にあるアジア国際奨学財団へ出勤され、外国人留学生に関連する仕事をこなされる。

バスケットボールを始められたきっかけは、中学生の頃ボールを次々とゴールに入れ合うのを見て魅力を感じたという。当時の教育課程はいわゆる旧制で笹岡さんは小学校から中高一貫校であった隅田川高校へ進まれ、バスケットに親しんだという。高校卒業後は東京外語大へ進学されたが、ご多分にもれず在学中に軍隊へ動員された。終戦後、専攻していた中国語の勉強が足りなかったのが理由で復学され、卒業後文部省に入られた。

文部省では、かつて振興会会員でおられた故井上一男さんとともにチームを作り、関東実業団連盟へ加入、最初の試合は神田のYMCAだったそうだが、ここにはYMCAが日本バスケットボール発祥の地として記念碑が建立されている。文部省チームは関東実業団の7部からリーグ戦に出場したが、毎年優勝して1部ずつ昇格し3部まで登ったがそれ以上は相手も強く、その後はバスケットをやる人が公務員試験に合格しないために入省せず、6部まで降格した上その後チームは廃部となった。

その頃、関東実業団連盟では各部から理事を選出する制度が定着、笹岡さんは理事に選出され競技委員会の仕事を担当されることになった。当時の理事長は日本鋼管の故横山さんで、競技委員会の業務は体育館の借用、用具の確保、競技日程の調整、リーグ戦組合せなど多忙を極め、競技委員会は会合だけでも年間10回以上を持ったという。

その一方、競技委員長であった笹岡さんは、関東実業団春のリーグ戦や秋のトーナメント戦のため体育館確保に奔走したが、このとき文部省役人だったことが幸いしたことが少なからずあったそうである。

昭和20年(1945)代後半、まだ企業が体育館を持っていない時期、借用を目指すのは学校の体育館であった。笹岡さんは文部省役人の名刺を持って学校を訪問、最初は教育の話から切り出し、やがて体育館を貸して欲しい旨話をすると快く承諾してくれたそうだが、文部省の役人が昼間の勤務中に出歩くわけにはいかず、昼休みにタクシーをとばして各学校への訪問をしたという。

昭和39年(1964)東京オリンピック開催によってバスケットのメッカは代々木第二体育館になったが、それまでは神田一ツ橋の国民体育館であった。この国民体育館は国立で文部省体育課が管理を担当していた。笹岡さんは同じ文部省内の体育課に日参、国民体育館の借用に許された範囲内で便宜を図ってもらったようだが、情報過多の昨今では考えられない計らいであった。

現在のNBLのように日本にトップリーグが存在しない頃、関東実業団連盟に所属していた日本鋼管、日本鉱業、東京海上、三井生命などの強豪チームのリーグ戦は殆どこの国民体育館で開催、ヒナ壇式の観客席はいつも一杯で活気にあふれていた。

しかし、その陰には笹岡さんの努力によって、バスケットボールが国民体育館を独占していた状態があり、お正月のオールジャパンもここで開催されたし、関東実業団リーグ戦でも2部3部までがここで試合を行った。

関東実業団連盟は、やがて理事長が横山さんから富士さんへと替わり、笹岡さんはその片腕として益々連盟の運営に力を注がれることになる。特に競技委員長は笹岡さんに替わる人がなく、その任務は20年以上の長きに及んだ。

その間、笹岡さんの温かな人柄に惹かれて多くの競技委員が誕生、日常本来の仕事の後いろいろな所で競技委員会を開催すると共に、皆で手分けをして試合のある各体育館へ足を運び、大会の運営に汗を流した。そのメンバーの中には現在も振興会会員である、乙部さん、黒川さん、関根さんなどがいるが、毎年昔を懐かしんで競技委員会同窓会を開催したり、時には旅行に行ったりしているそうである。



競技委員会同窓会

当時競技委員会の男性陣はあまり上背の高い人がいなかったため、ある時競技委員会の中で男女対抗戦を行おうということになって実現したところ、実業団の上位チームに所属していた女性陣が強く、男性陣は悪戦苦闘の結果1ゴール差でやっと勝った思い出があるという。

笹岡さんは80年近くになるご自分のバスケットボールとのかかわりの中で、この競技委員会の方々とのお付き合いが格別のものと言われる。人生誰しも長きにわたり仕事がついて回るが、バスケットボールという趣味を通じて、多くの人が団結して連盟運営のために協力するという体制は、経験をした人でなければ理解できない絆であり、生涯バスケットボールに取り組んだことが人生にプラスになってきたと懐古された。

前述したように、笹岡さんは実業団の競技委員長として苦勞されてきたが決して表に出ることなく、常にバスケットボール界発展のためにコツコツと陰の努力をされた、いわゆる縁の下の力持ちである。

振興会の前身となった実業団協力会発足の時も、発起人である故富士秀雄氏の片腕となって規約の原案づくりを行っておられる。振興会になってからもご自分の経験からくる貴重なセッションをされ、特に振興会がNPO法人化する際は、手続きや定款作成などにご協力いただいた。

「文部省時代は本来の仕事とバスケットの仕事で激務でした」と回顧する笹岡さん。今年90歳を迎えるので、国際奨学財団の仕事もそろそろ辞めさせていただこうと思っているとか。そして少し暇ができれば好きなゴルフでも楽しもうと思っているが、やっと時間が取れるようになったら、今度は高齢でボールが飛ぶかどうかかわからず、「人生なかなか思うようには行かないものです」と云って笑う顔は温厚そのものであった。

# スペシャルオリンピックス アジア太平洋大会

[編集部]

振興会では、スペシャルオリンピックス（知的発達障害のある人達）のバスケットボールを支援しているが、このほどオーストラリアで開催されたアジア太平洋大会に、日本から東京、千葉、栃木の代表チームが参加した。

今回その東京代表チームから振興会に報告書を提出いただいたので、下記に紹介する。

## スペシャルオリンピックス東京代表コーチ 古野 庸一

スペシャルオリンピックス 2013 アジア太平洋大会は、オーストラリア ニューキャッスルにて、12月初旬に開催されました。東京代表チームは、その大会のディビジョン2において、銀メダルを獲得しました。

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちのスポーツ活動を支える非営利組織です。1968年にケネディ財団の支援を受けアメリカで設立され、現在、世界約180カ国で、知的障害のある人たちにスポーツの機会を提供し続けています。

今回のアジア太平洋大会には、31カ国、約2500名の選手が出場し、約5000名のボランティアが大会の支援を行ないました。バスケットボール男子は、地元オーストラリア6チーム、日本3チーム、フィリピン、インド、パキスタン、インドネシアの13チームが出場しました。

東京代表チームは、選手10名、コーチ3名、マネジャー1名の合計14名で構成され、11月28日に成田を飛び立ち、翌日、現地に入りました。12月1日の開会式後、12月2日ディビジョニングのために、3試合行ないました。ディビジョニングとは、スペシャルオリンピックス特有のルールで、競技種目におけるクラス分けを意味します。可能な限り同程度の競技能力のアスリート同士が競技できるようにグループ分けが行なわれます。

ディビジョニング3試合は、流しで6分のゲームを行ないました。対戦相手は、オーストラリア2（6対5）、パキスタン（29対2）、オーストラリア4（6対9）で、2勝1敗の成績で、ディビジョン2のグループにクラス分けされました。ディビジョニングは、ゲームの勝ち負けも考慮されますが、ゲーム前の練習も審査対象になります。いつも通りの練習を行ない、公正に能力をはかっていきます。そこでは、正直であることが求められます。

ディビジョン2は、東京以外に、千葉、オーストラリア2、フィリピン、インドネシアの5チームで構成され、決勝大会を行ないました。東京代表チームは、フィリピン以外のチームに勝つことができ、3勝1敗で、再度、フィリピンと決勝を戦うことになりました。

この大会に向けて、東京チームは、半年間、約20回の練習を行ないました。チーム全体の目標は、大きく二つ。「パス・キャッチ・ドリブル・シュートなどの基本プレーができること」と「チームプレーができること」でした。

大会を振り返ってみると、ボール運びによるドリブルミス、パスミス、キャッチミスはほとんどありませんでした。9月の練習試合では、10個以上あった、それらのミスをほぼゼロにできたのは、大きな成果であったと思われれます。試合前に必ず行うスクエアパス

は、ほとんどノーミスであり、シュートに問題があった選手もいましたが、全員が得点でき、そのことを素直に喜べるチームがくれたことも大きな成果で、それを本当に感じる事ができたのは、決勝戦でした。

それまでは、勝っている試合では、徐々に、それぞれの成果を喜べてはいましたが、負けている試合では、そういきませんでした。負けていると、個人プレーをし始め、失敗すると他人へ責任転嫁する。チームを引っ張っている選手がそれをし始めるから、他の選手は、それが嫌になる。大会の前の練習試合での負けゲームでは、個人プレー、自滅、他責でチームのムードは悪くなっていきました。

決勝戦、フィリピンは強く、前半で30点の差をつけられました。しかし、キーになるプレイヤーは個人プレーに走ることはなく、淡々と自分のプレー、チームプレーを続け、最後まで、自分たちの力を出し切ることに専念しました。ナイスゲーム。後半残り3分。このチームでどう戦っていくのだろうかと悩んでいた当初のことが頭をよぎりました。途端に、目頭が熱くなってきました。まだ試合途中でしたが、懸命に戦っている選手を頼もしく、誇らしく感じました。試合終了。45対75。結局、30点の差で負けました。

相手チームに挨拶にいったときに、堰をきったように号泣しました。みんな泣いている。いきなりキャプテンに抱きつかれる。号泣しはじめた。数分間、男二人が抱き合っ泣きました。

ひとしきり泣いて、少し落ち着いて、コート脇で反省会。一人ひとり一言ずつ。

「はじめみんな下手だと思っていた。でもドンドンうまくなって行って、それがうれしかった」と泣きながら話すキャプテン。シャイで斜に構えていたキャプテンの素直なコメントが心に響く。本当のキャプテンになった瞬間でした。

多くの方に支えられて、私自身、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。関係者の方々、誠にありがとうございました。



# DUPER®



WE ARE A SPECIALIST IN BASKETBALL GOODS.

DUPER FIVE CO., LTD.  
3-5, TATEKAWA 3-CHOME, SUMIDA-KU, TOKYO 130-0023 JAPAN  
TEL. TOKYO 03(3632)7045 FAX. TOKYO 03(3632)8327  
URL: <http://www.duper.co.jp> E-mail: [info@duper.co.jp](mailto:info@duper.co.jp)



# BASKETBALL STREET

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、メイン通りの名を「バスケットボールストリート」とし、2012年秋にはシンボルとなるモニュメントも設置いたしました。

5年10年と時をかけて、、、  
この「バスケットボールストリート」通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



## バスケットボール ストリート



渋谷センター街